

女性による特許申請の割合、学術界が他の領域を上回る (7月8日)

インディアナ大学ブルーミントン校 (Indiana University Bloomington) 情報科学・コンピュータ学部に所属する情報科学准教授のキャシディ・スギモト氏 (Cassidy R. Sugimoto) らは、1976年～2013年に発行された米国一般特許約460万件を検証・分析した結果をまとめた研究論文「学術界の優位性 ～特許に見られる男女間格差～ (The Academic Advantage: Gender Disparities in Patenting)」をオンライン学術誌「プロス・ワン (PLOS ONE)」で発表した。本研究論文によると、女性による米国特許申請は、産業界・政府・個人と比較して学術界の割合が非常に高いことが明らかにされた。スギモト氏らによると、1976年～2013年の間に、女性が関与する特許の割合は、全領域において平均2～3%であったものが、産業界で10%、個人で12%、学術界で18%に増加したという。また、女性の関与する特許には、幅広い分野からの貢献者が含まれていることが多く、女性発明家は協力的且つ学際的な傾向が強いことが判明している。その反面、STEM分野における女性研究者は全体の約3分の1を占めているにもかかわらず、特許の割合はそれを大きく下回るなど、改善すべき点があることも明らかにされた。

なお、本研究論文は、<<http://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0128000>>から閲覧可能。

Science Blog, Patent filings by women have risen the fastest in academia

<http://scienceblog.com/79182/patent-filings-women-risen-fastest-academia/#I1weDBZPTReboiFH.97>